

モビリティ変革コンソーシアムで 東京駅タクシー乗り場混雑状況の可視化する実証実験を実施

国際自動車株式会社（東京都港区、代表取締役社長：西川洋志、以下、国際自動車）は、東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区、代表取締役社長：深澤 祐二、以下JR東日本）、株式会社日立製作所（東京都千代田区、執行役社長兼CEO：東原敏昭）、凸版印刷株式会社（東京都台東区、代表取締役社長 磨秀 晴）、大日本印刷株式会社（東京都新宿区、代表取締役社長：北島義斉）、SAS Institute Japan株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：堀田徹哉）株式会社デンソー（愛知県刈谷市、取締役社長：有馬 浩二）DXCテクノロジー・ジャパン株式会社（東京都中央区、代表取締役社長：西川 望）、大和自動車交通株式会社（東京都江東区、代表取締役社長：前島忻治）と、東京駅(八重洲口・丸の内北口)タクシー乗り場における混雑状況を可視化する実証実験を1月28日から実施いたします。

■背景

今回、JR東日本が主催するモビリティ変革コンソーシアム※1の「Door to Door推進ワーキンググループ」の会員メンバー(上記記載企業)は、MaaSの取り組みとして出発地から目的地までの「シームレスな移動」の実現をめざす中で、タクシー利用者の利便性向上と移動時における安全・安心の更なる向上を目的として、東京駅のタクシー乗り場の混雑状況の解消をテーマに実証実験を行います。

■実証実験概要と当社の役割

東京駅（八重洲口・丸の内北口タクシー乗り場）にカメラ※2とセンサーを設置し、タクシー待ちをされているお客さまの人数を可視化し、スマートフォン上でタクシー利用者に混雑情報をリアルタイムに提供します※3。タクシー利用者及び当社タクシードライバーを対象に、実証実験における課題や機能拡張の方向性について評価・検証を実施します。検証結果を踏まえタクシー配車業務などにおける改善施策を検討し、タクシー利用者の待ち時間短縮化、タクシー乗り場の混雑解消による安全・安心の向上を目指します。

■実証場所・期間

八重洲口タクシー乗り場 2021年1月28日～2月7日
丸の内北口タクシー乗り場 2021年2月4日～2月7日

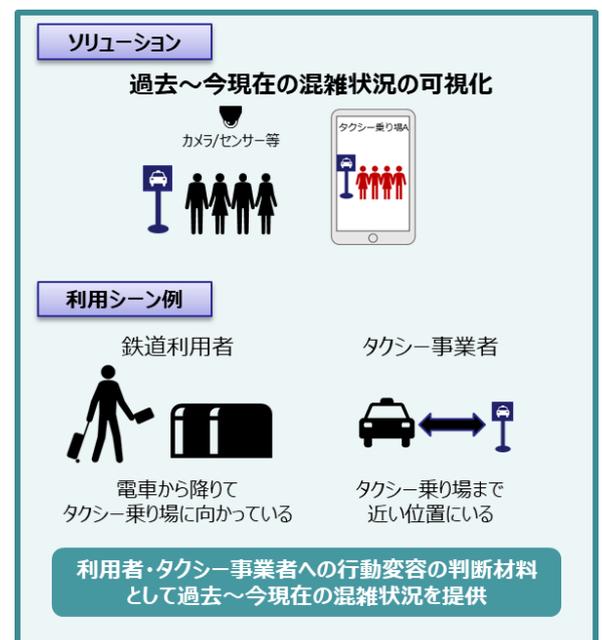
※1 モビリティ変革コンソーシアムについて

「モビリティ変革コンソーシアム」は解決が難しい社会課題や、次代の公共交通について、交通事業者と、各種の国内外企業、大学・研究機関などがつながりを創出し、オープンイノベーションによりモビリティ変革を実現する場として設立されました。

▶モビリティ変革コンソーシアム HP：
<https://www.jreast.co.jp/jremic/>

※2 カメラで撮影した映像は、タクシー乗り場における人数集計にのみ使用し、映像データは、人数集計処理後に即時破棄されるため、利用者個人を特定する情報は保存されません。

※3 凸版印刷株式会社及びDXCテクノロジー・ジャパン株式会社から提供されるソリューションを用いて、混雑状況を可視化し、スマートフォン向けに配信します。



< イメージ図 >

【 本プレスリリースに関するお問合せ先 】

JR東日本モビリティコンソーシアム・Door to Door 推進ワーキンググループ
2020年度「需要の可視化による交通行動の最適化実証」国際自動車・事務局
TEL : 03-6277-7272 メール : pr@km-group.jp